

2 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	カンボジア教育・青年・スポーツ省（以下、教育省）は、教育改革を進めており、ASEAN 基準に合わせるため、すべての教員が学士（4 年制大学卒業）を取得できるよう 4 年制の教員養成課程を設立しようとしている。一方、体育科については、国立体育・スポーツ研究所（以下、NIPES）において 2 年制課程で中学校・高等学校の体育教員を養成しており、4 年制にするためにはカリキュラム等のシステム構築、人材育成、施設整備等、多くの課題を抱えている。本プロジェクトでは、10 年に亘りカンボジアの体育科教育の発展のために活動してきた当会の知見を活かし、他教科の教員養成大学と一貫性のとれた 4 年制体育大学を設立することを目的としている。 Ministry of Education, Youth and Sport (MoEYS) has been renovating the education system and in order to ailing with other ASEAN countries, which all the teachers have bachelor degree, implementing the project to develop Teacher Education College (TEC: 4-year university); however, physical education course is not included in the TEC system and National Institute of Physical Education and Sport(NIPES) remains as 2-year college to train PE teachers for lower and upper secondary school. Therefore, in this project, the goal is to develop consistent 4-year university of physical education with TEC to educate PE teachers for lower and upper secondary schools.
(2) 事業の必要性と背景	(ア) 事業実施国における一般的な開発ニーズ ●体育科の意義とカンボジアの教育システム内での位置づけ ・ 2013 年の UNESCO の統計では、全世界で 97%の国で体育が教育課程に導入されており、アジアでは 100%導入されている。 ・ 世界的には、1978 年 11 月の UNESCO 総会にて「体育・スポーツ国際憲章」が採択され、2015 年 11 月に改訂された「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」では、「第 1 条 体育・身体活動・スポーツの実践は、すべての人の基本的権利である」「第 4 条 体育・身体活動・スポーツのプログラムは、生涯にわたる参加の動機付けとならなければならない」等が謳われている。 ・ カンボジアでは、体育は、2015 年に改訂されたカリキュラム・フレームワークの中で、自らの可能性を最大限に高められるよう「態度・知識・技能」を学ぶための 10 教科（国語：クメール語、算数・数学、理科、社会、芸術、体育、保健、コンピューター（ICT）、外国語、ローカルライフスキル）の一つとして位置付けられており、体育科は週 2 時間、年間 70 時間の授業数が確保されている。 ・ 当会がカンボジア教育省と協力して作成した体育科学習指導要領は、2007 年に小学校、2016 年に中学校のものが認定されており、その内容はカリキュラム・フレームワーク内に記載のある「態度・知識・技能」を育てる内容となっており、体育の授業においてグループやチームで一緒に競技を行うことで、チームワーク、ルールの遵守やフェアプレイ等、生徒たちが成人し、社会に出た時に活用できる多くの資質を身につけることができる。 上記のようにカンボジアの小・中学校では、体育が教育対象科目になっているが、実際にはほとんどの学校で授業が行われていない。そのため、体育を通

じた健康作りについて国民の意識が低いので体育科教育を体系的に確立させることは、国民保健を改善していく意義を持つ。

(イ) 申請事業の内容(事業値・事業内容)に至った経緯及び全事業からの成果・課題・問題点とそれに対する対応策

●事業申請に至る経緯

- ・カンボジアでは、アセアン各国との調整により教員養成システムが見直されており、全教員を学士取得者とする 것을 目指し、現在 2 年制で 18 州にある小学校教員養成校と 5 州にある中学校教員養成校は 2020 年を目標に 4 年制の教員養成大学へと移行される計画である。
- ・体育・スポーツにおいてもアセアン連携が進んでおり、毎年 1 度開催されている ASEAN Conference of Physical Education and Sport にも 2018 年からカンボジアからも参加しており、より質の高い体育科教育を提供できるよう情報収集を行ったり、カンボジアの体育事情を発表したりしている。
- ・中・高等学校の教員のうち、体育科教員だけは、上記 4 年制大学化が計画されている教員養成大学ではなく、教育省の NIPES にて育成されている。
- ・上記の教員養成大学への移行過程において、小学校の教員は全教科を教えるため、体育科も教員養成大学の中に含まれるが、中・高等学校については専科であるため、依然として 2 年制の NIPES で体育教員が養成される。
- ・NIPES 以外に体育・スポーツに関する知識を有している機関がない中、全ての教科の教員を学士取得者とするためには、NIPES に 4 年制の体育科コースを設立する必要がある、カンボジアで 10 年以上、小・中学校の体育科教育の発展に携わってきた当会に対して、教育省より、NIPES の体育科コースの 4 年制大学化への協力依頼があった。

●NIPES の体育科コース 4 年制大学化における課題

- ・カンボジアの学習指導要領や体育の授業の実施状況に基づいた既存の体育科カリキュラムがないことから、教育省と 2017 年に体育科カリキュラム策定支援に関する MOU を締結したフランスのナント大学の知見も活用しつつ、右カリキュラムを作成する必要がある。
- ・NIPES の授業の内容は、実技(スポーツ)に偏っており、教授法や指導方法等を教えていないため、新しいカリキュラムを作り、その内容を教えられる人材を育てなければならない。
- ・体育科教員が体育科学習指導要領に則した教授内容を習得するための体育・スポーツ施設が NIPES に整備されていない。
- ・以上の 3 つの課題を解決するため、NIPES の体育科コースに 4 年制大学としてのカリキュラムを整備し、そのカリキュラムを教えることのできる人材育成とカリキュラム内容実施のための施設整備を合わせた事業を提案する。

●第 1 年次事業における成果・指標及び達成状況

- ・第 1 年時の成果・指標・達成状況は以下のとおりである。

成果	指標	達成状況
【成果 1】 NIPES の体育科コース が 4 年制大学に移行す	体育科コース 4 年制大学設 立委員会の設置、改訂版体 育科カリキュラム、アドミ	体育科コース 4 年制大学設 立委員会は設置され、改訂 版体育科カリキュラムは教

		るための制度が整えられる。	ッション・ポリシー、体育科コースの運営ハンドブック、キャリアプラン、評価ポリシーが作成される。	育省大臣により承認された。 また、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシーが記載された教員用及び生徒用運営ハンドブックが作成・印刷・配布された。
		【成果 2】 NIPES において、質の高い体育を教えられる人材が育成される。	4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるための体育教員育成研修がカンボジア国内で開催され、参加した NIPES 職員の 60%が 60%の内容を理解している。	4 年制大学体育科コースで教えていく教員 31 名が、カンボジアでの研修に参加し、事業終了時に受けた理解度確認テストにより、65%が 60%の内容を理解していることが確認できた。
			4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上させるための体育教員育成研修が、日本及びタイで開催され、派遣された各 4 名が研修を修了している。	日本での研修及びタイでの研修に各 4 名が参加し、合計 8 名が研修終了証を受領した。
			NIPES の 60%のマネジメント・スタッフがアドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシーや運営ハンドブックの内容を 60%以上理解している。	NIPES のマネジメント担当官 33 名が事業終了時に受けた理解度確認テストにより、67%が 60%以上の内容を理解していることが確認できた。
		【成果 3】 NIPES において、質の高い体育を教えられる施設状況が整う。	プールが建設される。	2019 年 9 月にプール本体並びにフィルター・ポンプルーム、給排水・配電システムが建設された。
			60%の NIPES 職員がプール運営について 60%理解している。	NIPES 担当官 57 名が理解度テストを受講し、95%が 60%の内容を理解していることを確認できた。
			施設運営マニュアルが作成されている。	プールの運営マニュアルが作成され、印刷・配布された。
		・ 成果 1 に関しては、成果としてカリキュラム・フレームワーク、各ハンドブック、運営ハンドブック等 4 年制の新しい制度に移行するために必要な基本文書が作成された。しかしながら制度の基盤が整えられたと言えるようになるには実際にこれらの基本文書に従って運営されることが必要である。第 1 年次では最後の 12 月に新学期開講し、新しい制度での運営状況进行评估することができなかった。よって、第 2 年次では新しい制度を試行的に運営し、改善ならびに運営の定着を図ることとす		

る。

- ・ 成果 2 に関しては、成果として日本研修（体育科教育と大学運営の研修）、タイ研修（ASEAN 諸国の体育科教育、大学運営の研修）を実施して実際の状況を視察し、理解することによって 4 年制体育科コースの開講に必要な基礎的な知識を習得することができた。また研修で得た体験・知識をカンボジア国内の研修において講師として NIPES の他の教職員に共有することができた。このように人材は育成されているが、より多くの知識・技能を身につけることを第 1 目的として、持続可能性を確保するために日本だけでなく、ASEAN 他国への視察をすることで事業終了後も NIPES が近隣諸国に視察できるように関係性を保つことを第 2 の目的として、第 2 年次も継続して実施する。
- ・ 成果 3 に関しては、成果としてプールと浄化設備のみが整備された。しかしながら、更衣室やトイレなどの必要な付帯設備は整備されなかったため、第 2 年次にこれを整備する。また、プールだけでなく質の高い体育を教える施設状況を整備するために、第 2 年次においてジム・ルームの建設及び必要な資機材の設置を行う。さらに、設備の維持管理・運営について言えば第 1 年次でプールのメンテナンスマニュアル、使用規則などが策定されたが、実際の使用は新学期の 12 月から始まったため、維持管理、使用が適切になされているかどうか引き続き第 2 年次に見ていく必要がある。

● 第 2 年次事業における成果・指標及び達成状況

- ・ 第 2 年次の成果・指標・達成状況は以下のとおりである。

成果	指標	達成状況
【成果 1】 NIPES の体育科コースが 4 年制大学に移行するための制度が整えられる。	体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った 4 年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第 1 年次では制度の基盤が 12 月に整ったので、達成度を 50% とする。そして今年度から実際に制度の運用を開始するため、第 2 年次の達成数値は新しく運用の程度を評価し、目標を 70% とする。	活動 1-15 の体育科コース運営ワークショップを 6 月 28 日から 30 日までの 3 日間オンライン形式で実施し、第 1 年次で作成した体育科コース運営ハンドブックに従って、NIPES の運営業務と各担当を明確にし、実際の運営業務を全員で確認し、運営ハンドブックを改訂し、評価シートを作成する事を決定した。 なお、昨年、本年度と学校が閉鎖されているので達成度の評価はまだ実施していない。
【成果 2】 NIPES において、質の	4 年制大学体育科コースで教えていくための能力を向	活動 2-3 の 4 年制大学体育科コースで教えていくため

		高い体育を教えられ る人材が育成される。	上させるための体育教員育 成研修がカンボジア国内で 開催され、参加した NIPES 教員の 70%が 70%の内容を 理解している。	の能力を向上するための体 育教員育成研修を日本とカ ンボジアにてまだ実施して いないので、達成度の評価 は実施していない。
			8 名の研修生が受講終了後 に NIPES での指導方法につ いての改善案(1 回目)及び 評価についての改善案(2 回 目)が提出され、NIPES の 75%の職員が改善案に合意 する。	活動 2-3 の 4 年制大学体育 科コースで教えていくため の能力を向上するための体 育教員育成研修を日本とカ ンボジアにてまだ実施して いないので、達成度の評価 は実施していない。
			NIPES の 70%のマネジメン ト・スタッフがアドミッシ ョン・ポリシー、キャリア プラン、評価ポリシーや運 営ハンドブックの内容を 70%以上理解している。	活動 1-15 の体育科コース 運営ワークショップを 6 月 28 日から 30 日までの 3 日 間オンライン形式で実施 し、第 1 年次で作成した体 育科コース運営ハンドブッ クに従って NIPES が日々の 業務を実施できているかど うかを確認した。 なお、昨年、本年度と学校が 閉鎖されているので達成度 の評価はまだ実施していな い。
		【成果 3】 NIPES において、質の 高い体育を教えられ る施設状況が整う。	プール、ジム機材等が実際 に体育の授業等で利用規則 に則って使用されている。	プールの維持管理は NIPES 内で管理グループを立ち上 げ、管理マニュアルに従っ て担当者が毎日掃除し、機 材や水質等のチェックを実 施し、SNS で毎日報告してい る。問題が発生すれば、担当 者が SNS でグループに連絡 し、さらにプールの業者に 直ちに連絡し、対処してい る。 昨年、本年度と学校が閉鎖 され体育の授業が実施され ていないので利用されてい ない。
			70%の NIPES 職員がプール 周辺建屋及びジム・ルーム 運営について、理解してい る。	プールの維持管理は適切に なされているが、建屋、ジ ム・ルームはまだ完成して いない。
		・成果 1 に関しては、活動「1-15 の体育科コース運営ワークショップを開		

催する」を、計画では4月上旬に対面で実施予定であったが、オンライン形式に変更して、6月28日から30日までの3日間実施した。NIPESの運營業務の現状を把握し、運営ハンドブックを改訂することが決定した。

- ・成果2に関しては、活動2-1「新しいカリキュラムに沿った教員マッチアップワークショップを開催する」を、計画では3月中旬に対面で実施予定であったが、オンライン形式に変更して、5月25日から27日までの3日間実施した。第1年次に作成したシラバスに従ってどのように授業を行うことができたかを確認し、その成果と課題を明らかにして、シラバスを修正し、クラスのアセスメント方法を検討した。

また、活動2-4「NIPESの体育教員の授業実施状況をモニタリングする。」はNIPESで実施したオンラインでの教育実習をモニタリングした。

- ・課題・問題点並びにその対応策であるが、新型コロナの感染拡大が継続しているため、カンボジア政府教育青年スポーツ省は公立私立を含むすべての学校教育機関を閉鎖し、対面授業を禁止しオンライン授業に変更するように通達し、会議や研修会、スポーツイベントなども禁止した。NIPESの学生も全員が地方の自宅に戻り、教職員も在宅勤務となっているので、オンラインで授業を行っている。このため本事業で計画していた対面での研修会やモニタリング等が実施できない状況が続いている。よって、第2年次の活動全体について、2か月ほどの遅れや変更がでているのみならず、本来の運營業務や授業等が十分に実施できる状況ではないので、第1年次で作成した運営ハンドブックに従って実際に運營業務を実施し、改善することが十分にできていない。

その対応策として、9月に実施する評価会議で運營業務を詳細に確認して、課題を把握し、今後の改善計画を明確にする。

また、授業については対面授業ができないため、オンラインで授業を実施しているが、第1年次で作成したカリキュラム・フレームワークに従った授業が十分にできているとは言えない。

その理由として、教員がカリキュラム・フレームワークに記載のクレジットシステムや評点平均(Grade Point Average)システムについて理解していないことやコロナ禍により対面での授業が難しく、シラバスを作成してもその通りに授業が実施できないことが挙げられる。

同様に日本への派遣、日本からの専門家の招へいについてもオンラインで実施する予定である。しかしながら、実際に日本等へ派遣し、研修するのは違ってオンラインでの研修の効果は限定的となることは避けられない。

また、質の高い体育を教えられる人材はワークショップや海外への研修だけではなく、教員自らが必要な知識を身に付けるために研究し、シラバスを作成し、テキストを作成する能力が必要である。しかしながらNIPESには体育に関する専門図書やクメール語に翻訳された文書もほとんどない。よって、専門書を購入し、研究し、テキストを作成することによって、質の高い体育を教えられる人材を育成することが必要である。

- ・以上のような第2年次の成果、課題を把握し、対応策を具体的に第3年次に生かすことが必要であるが、カンボジア政府は現在12歳以上の国

民へのワクチン接種に全力を挙げて推進しており、年内に目標を達成し、学校が再開される見通しである。よって、第3年次はNIPESでの対面授業が再開するのに伴って、ワークショップ、モニタリング等を実施し、成果1のNIPESの運營業務の更なる定着を図る予定である。

また、成果2については第2年次でタイ、マレーシアへの派遣ができなかったため、第3年次に実施し、質の高い体育を教えられる人材の更なる育成を図る。さらに、カリキュラム・フレームワークに従って必要な図書を厳選し、これを購入してクメール語に翻訳し、最も必要な分野の科目を選んでテキストを作成する。

また、成果3については寮の改修を実施するとともに第1年次で建設したプールや第2年次に設置したジム・ルームの機材を管理運営するとともに、授業で使用する。

●「持続可能な開発目標(SDGs)」との関連性

- ・ 2017年7月にロシアのカザンで開催されたユネスコ体育・スポーツ大臣会合において、「カザン行動計画」が採択され、ユネスコのSDGsに則った体育・スポーツの発展や障がい者や女性のインクルージョン等が盛り込まれており、体育・スポーツがSDGsの達成においても重要な役割を担うことが明記されている。
- ・ カンボジアの4年制体育大学システムの構築は、2015年9月に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(SDGs)」の以下の項目の達成に貢献できる取り組みである。

目標4、「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」

4.1 「2030年までに、すべての子どもが男女の区別なく、適切かつ効果的な学習成果をもたらす、無償かつ公正で質の高い初等教育及び中等教育を修了できるようにする。」

4.c 「2030年までに、開発途上国、特に後発開発途上国及び小島嶼開発途上国における教員研修のための国際協力などを通じて、質の高い教員の数を大幅に増加させる。」

ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災
9:不明／未定	2:主要目標	2:主要目標	0:目標外	0:目標外	0:目標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動 (緩和)	気候変動 (適応)	砂漠化
0:目標外	9:不明／未定	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外

参照1：

[https://one.oecd.org/document/DCD/DAC/STAT\(2018\)9/ADD2/FINAL/en/pdf](https://one.oecd.org/document/DCD/DAC/STAT(2018)9/ADD2/FINAL/en/pdf)
(43ページ～)

参照2 (防災、栄養、障害者は以下を参照。)

[https://one.oecd.org/document/DCD/DAC/STAT\(2018\)52/en/pdf](https://one.oecd.org/document/DCD/DAC/STAT(2018)52/en/pdf) (6ページ～)

	●外務省の国別開発協力方針との関連性 カンボジア政府が掲げる国家開発計画「四辺形戦略」のひとつである「能力強化と人材開発」に位置づけられる。また、これに対応し、教育は外務省の対カンボジア国別開発協力方針の中目標：産業振興支援の産業人材の育成として位置付けられている。 ●「T I C A D V IおよびT I C A D 7における我が国取組」との関連性 カンボジアでの案件のため、該当しない。――
(3) 上位目標	学習指導要領に沿った体育科教育が中・高等学校教育の現場で実施されている。
(4) プロジェクト目標 (今期事業達成目標)	4年制体育科コースの試行的開講に最低限必要なシステムが構築され、教員/スタッフが育成され、プール、ジムが整備されることによって、NIPESの学生が現行の学習指導要領に沿った中・高等学校体育科を教えるために必要な領域・種目を履修することができるようになる。 4年制の中・高等学校体育科教員養成課程がカリキュラム・フレームワーク、アドミニストレーション・ハンドブックに従って運営される。
(5) 活動内容	「4年制の中・高等学校体育科教員養成課程がカリキュラム・フレームワーク、アドミニストレーション・ハンドブックに従って運営される。」という今期事業達成目標を達成するため、以下、3つの成果及び成果に沿った活動を計画する。 【3年目】 - NIPESの体育科コースが4年制大学に移行するための制度が整えられる。 1-17. 体育科コースの運営をモニタリングする。 体育科コースの運営モニタリングは2年次に作成されたアドミニストレーション評価表に従い、NIPES職員3名、HGスタッフ5名がチームとなり、カリキュラム及びアドミニストレーション・ハンドブックの履行状況、施設マネジメント状況、教員育成状況等をモニタリングしていく。 1-18. 体育科コースが正式に開講する。 1年次、2年次を経て、カリキュラム、単位制度の定着等を図ってきた。4年制のカリキュラムにおいて、全カリキュラムの運用が十分にできている状況ではない。3年次には、開講前に全てのシラバスの準備、生徒への通知、適正な入学試験、授業のモニタリング・評価等を実施していくことが可能となる正式開講を目指している。 - NIPESにおいて、質の高い体育を教えられる人材が育成される。 当初の計画ではタイ、マレーシアへの派遣研修を第2年次に実施する予定であったが、ASEAN全体で新型コロナ感染拡大のため派遣できなかったため、第3年次に実施する。 2-3. 4年制大学体育科コースで教えていくための能力を向上するための体育教員育成研修を日本とカンボジアにて実施する。 実施回数：4回（本邦研修2回、カンボジア研修2回） （本邦研修）

(概要)

第1回目、実施期間：10日間、実施時期：3か月目の中旬、対象者：4名

経費：日本に招聘するNIPES教職員4名と同行する当会スタッフ1名の航空賃、日当、宿泊費、国内旅費

目的：NIPESで優秀な4名が、4年制コース試行運営以降、カリキュラムの内容を把握しながら、体育教員を養成するためには、各授業にてどのような教え方が求められているかを日本の体育大学にて確認し、NIPESにおいて、他の教員に教えられるよう育成する。

内容：NIPESは体育教員を養成する機関であり、2019年12月に試行的に4年制の1年目をスタートすることができた。12月開始以降、プロジェクトにおいて、教員の授業をモニタリングし、講義・実技に分けて、教授法、生徒の理解度、授業の流れ等を確認し、データ集積し、教員の質を確認しているところである。その中で、他の教員のモデルとなる教員を日本に招聘し、日本体育大学を中心に、日本の大学の講義・実技の授業を視察する。今までの教え方では、論理性や生徒の興味を引き出す授業はできておらず、新しい教授法を学ぶことにより、教え方のバリエーションを増やし、知識を蓄積する。また、現在のNIPESの6領域

(Education Studies, Academic Subjects, Curriculum Studies, LEADS, Essential Course, Practicum)全体を通して日本の体育大学の構成と比較することで、個々の授業がどのように体育教員の資質を育成していくのか確認する。

(概要)

第2回目、実施期間：10日間、実施時期：9か月目の中旬、対象者：4名

経費：日本に招聘するNIPES教職員4名と同行する当会スタッフ1名の航空賃、日当、宿泊費、国内旅費

目的：NIPESで優秀な4名が、日本での体育教員養成課程での生徒の評価方法を学ぶことで、NIPESにおいて、どのように生徒を評価し、単位を与えるかを整理する。

内容：NIPESでは、各授業での評価方法が明確になっていない。シラバスでどのように評価するか概略が記載されている一方で、試験以外での評価の指標をどのように取ればよいか、NIPESの教員も悩んでいる。生徒が体育教員となるために必要な資質を身に付けたかを評価するために、日本の体育大学においての講義・実技の授業で、どのような手法で生徒に単位を付与しているのかを視察することにより、NIPESにおいて、公平な生徒の評価基準の確立につなげる。評価手法を確立することにより、NIPESの運営の透明性も確保することができる。カンボジアでは、教員養成大学等、講義の授業評価は参考にできるところもあるが、体育大学がないため、日本の体育大学での評価手法を視察することは大変重要である。

(カンボジア国内での研修会)

	(概要) 第1回目、実施期間：各3日、実施時期：6か月目の中旬ないしは下旬、対象者：30名、外部専門家の招へい：有り（未定） 経費：参加者日当、軽食費¹、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 招へいする専門家の航空賃、日当、宿泊費、査証取得費、日本国内旅費、資料作成費、海外旅行保険代。 目的：日本に研修に行った教員が展開する授業手法を専門家に確認してもらうことで、NIPESでの教授法の方向性を確認し、また専門家より追加で教授法を紹介してもらうことで、NIPESの各教員の教授法の幅を広げる。 内容：日本の体育大学の授業内容を視察した教員リーダーがNIPESでの教授法を紹介・実践する。その内容を専門家に見てもらうことで、現在のNIPES教員にとって必要な教授法を指摘してもらう。加えて、日本だけでなく、世界の体育教授法を確認してきた専門家より、新しい視点を紹介してもらうことにより、教員の質の幅を広げ、講義及び実技の内容を検討することで、NIPESにおいての授業内容が改善されることを期待する。 (概要) 第2回目、実施期間：各3日、実施時期：11か月目の中旬ないしは下旬、対象者：30名（技術委員会を中心にした30名）、外部専門家の招へい：有り（筑波大学山口拓助教） 経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 招へいする専門家の航空賃、日当、宿泊費、査証取得費、日本国内旅費、資料作成費、海外旅行保険代 目的：本邦研修に行った教員が、日本の評価手法を元に、NIPESでの評価手法案を紹介し、検討することで一貫性のとれた公平で平等な評価手法になるよう確認する。カンボジアの教育事情に詳しい山口助教に確認いただくことで、NIPESでの実践可能性について検討する。 内容：2回目の本邦研修に参加した4名が、日本の評価手法を参考にし、NIPESでの評価手法の案を策定する。策定した評価手法を研修参加者に紹介した後、参加者全員で検討することで、実際に教えている教員としての問題点や課題を共有し、実際に運営できる評価手法に仕上げていく。 2-4. NIPESの体育教員の授業実施状況をモニタリングする。 シラバスに沿った内容を教えているか、年間計画・指導案に沿った授業が実施できているか、学生が体育教員となるために必要な資質をしっかりと身につけているか等を、評価シートを作成して確認する。 (授業のモニタリング全6回を実施する。うち5回は、中学校で
--	--

¹ 軽食費とは、会議やワークショップで、午前と午後それぞれの途中休憩に合わせて、ミネラルウォーターやコーヒーなどの飲み物と、フルーツやパンなどの軽食を提供するリフレッシュメントのことで、現地では会議やワークショップの際に提供する習慣があり、当会他事業や他団体の事業においても一般的に提供されている。

	の教育実習のモニタリングであるため、予算計上は5回分。) 2-5. 大学マネジメント能力向上のための研修を実施する。 (概要) 実施回数：1回、実施期間：3日、実施時期：8か月目の上旬ないし中旬、対象者：30名（技術委員会を中心にした30名）、外部専門家の招へい：有り（日本体育大学岡出美則教授） 経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 招へいする専門家の航空賃、日当、宿泊費、査証取得費、日本国内旅費、資料作成費、海外旅行保険代。 目的：NIPES教職員が1年間の試行運営を通して、問題点や課題を共有し、ガイドブックや規定等をワークショップ内で修正していくことを目的とする。 内容：研修参加者が1年間を通じての4年制大学の運営を通して、アドミニストレーション・ハンドブックの内容の課題を共有し、議論していく。施設運営や教員・生徒への大学運営への関与、人材育成等における課題点と解決案を検討し、今後どのように4年制大学の円滑な運営ができるようになるかを参加型で検討するワークショップを実施する。 2-6. NIPESの授業を教える人材、NIPESの日々の業務を運営するための人材が育成されたかを確認するための評価会議を開催する。 (概要) 実施回数：1回、実施期間：3日、実施時期：2-5に続いて実施する。対象者：70名（教育省NIPES職員：65名（NIPES改革委員会局長1名、NIPES局長1名、副局長3名、総務課10名、計画課4名、文書管理課7名、体育・スポーツリサーチセンター3名、体育・スポーツ教員養成センター36名）及び、本事業を実施するために教育・青年・スポーツ省大臣が承認した4つの委員会（参照、別添32）のNIPES教職員以外のメンバー5名の合計70名。）、外部専門家の招へい：有り（日本体育大学岡出美則教授） 経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 招へいする専門家の航空賃、日当、宿泊費、査証取得費、日本国内旅費、資料作成費、海外旅行保険代 目的：年に一度評価会議を実施することでアドミニストレーションは、計画通りに必要事項が実施され、適切な評価がされているのか、授業の評価は、教員がカリキュラム・フレームワーク、シラバスに沿った授業ができており、生徒が適切に評価されているかを確認し、今後の改善につなげる。 内容：アドミニストレーションでは、大学の運営として必要な事項をリストアップ化し、それぞれの項目についての具体的な評価指標を設定していく。評価後、評価報告書を作成することで、対外的な運営の透明性と大学基準としての内部監査としてNIPESの通年業務として位置づけられるよう進めていく。授業評価では、教員がカリキュラム・フレームワークを理解し、シラバスを作成し、シラバスに沿った授業が行えているかを確認する。また、シ
--	---

ラバスに従った生徒評価ができているかも確認し、毎年評価会議を通じて、各教員が向上していくための課題を明確にする。

2-7. 教育省として、体育関連の修士課程を修学できる NIPES スタッフを派遣するため、タイ、マレーシアの大学との協議を行う。

(理由)

カンボジア国内では、体育関連の修士・博士が取得できる大学がなく、近隣諸国への留学が必要になる。そのため、タイ・マレーシアの大学と覚書を結び、NIPES の教員及び学生が留学できるようにシステムを構築しておくことが重要である。

本活動は第 2 年次の申請において追加し、承認いただいている。第 2 年次に活動が実施できなかったため、第 3 年次に実施する予定である。

実施回数：2 回（詳細別紙）

(第 1 回目)

(概要)

実施先：タイ、実施期間：5 日間、実施時期：2 か月目の下旬ないしは 3 か月目の上旬、対象者：4 名

経費：タイに招聘する NIPES 教職員 4 名と同行する当会スタッフ 1 名の航空賃、日当、宿泊費、国内旅費

目的：体育教員の修士が取得できる大学と MOU を結び、カンボジアの Teacher Education Provider Standard に記載のある資格を持った人材を育成できるための連携協定を結ぶ。

内容：2019 年 8 月に実施したタイ研修の際に、カセサート大学、シーナカリンウィロット大学、ノースバンコク大学の 3 大学との MOU の可能性について協議した。今回の協議では、事前に MOU 内容について合意を図り、実際に MOU への署名を行う。また、MOU 締結後の双方の計画を協議し、NIPES の人材が早急に修士の資格を取れるよう進めるよう調整する。

(第 2 回目)

(概要)

実施先：マレーシア、実施期間：5 日間、実施時期：5 か月目の中旬ないしは下旬、対象者：4 名

経費：マレーシアに招へいする NIPES 教職員 4 名と同行する当会スタッフ 2 名の航空賃、日当、宿泊費、国内旅費
目的：体育教員の修士が取得できる大学と MOU を結び、カンボジアの Teacher Education Provider Standard に記載のある資格の持った人材を育成できるための連携協定を結ぶ。

内容：2019 年 7 月に University Putra Malaysia から Malaysia Qualification Agency の専門家でもある Lian Yee Kok 教授を招いて実施した研修の際に、プトラマレーシア大学との MOU の可能性について協議した。今回の協議では、事前に MOU 内容について合意を図り、実際に MOU への署名を行う。また、MOU 締結後の双方の計画を協議し、NIPES の人材が早急に修士の資格を取れるよう進め

るよう調整する。

2-8. テキストを作成する。

書籍の購入・翻訳は第1年次の申請書、活動3-7に入れているが、第3年次の活動内容をNIPESと協議した際にNIPES側より、いくつかの教科のテキストをモデルとして作成してほしい旨依頼があった。翻訳したものを実際に使ってテキストを編集することによって、カリキュラムフレームワークとシラバスに従ったテキスト作成の重要性と、外国語専門図書の選定方法、翻訳、編集の一連のプロセスを理解し、今後はNIPESが独自にテキスト作成をすることができるために必要であると判断した。

よって、NIPESの教員及びHGが購入した英語の体育関連の専門書の内容を確認し、クメール語に翻訳する箇所の決定、クメール語への翻訳、専門用語等のチェック、テキストの作成を行う。(3日間のワークショップをNIPESの教員12名に対して、合計7回実施する。)なお、翻訳については、著作権所有者の許可が取れたものを翻訳する。

(概要)

第1回目：英語の体育関連の専門書の内容を確認し、クメール語に翻訳する箇所の決定(3か月月上旬)

第2回目：クメール語の翻訳、専門用語の確認(4か月月中旬、下旬)

第3回目：クメール語の翻訳、専門用語の確認(6か月月中旬、下旬)

第4回目：テキストの作成、草稿案1の確認(7か月月中旬)

第5回目：テキストの作成、草稿案2の確認(8か月月中旬)

第6回目：テキストの作成、草稿案3の確認(9か月月中旬)

第7回目：テキストの作成、校正、最終稿(10か月月中旬)

3. NIPESにおいて、質の高い体育を教えられる施設状況が整う。

当初の計画では寮の建物の外壁と内壁の塗装の塗り替え、1階と2階の天井板の張替え等を行う予定であったが、2020年に教育・青年・スポーツ省次官の個人的寄付により外壁と内壁の塗装の塗り替え、1階の天井板の張替え工事を行った。よって、その予算を全額カットし、屋根構造と瓦の全面取り換え工事費等に充てることをNIPESとの協議のうえで決定した。

(理由)

当初の計画では傷んでいる屋根瓦のみを交換をする予定であったが、その後強い風雨の時が何回もあり、老朽化している木造の屋根構造が傷み、また瓦の損傷箇所が多くなっている。今後の事を考えると老朽化した木造の屋根構造を鉄骨構造にし、割れやすい素焼きの瓦から堅固なコンクリート瓦にすべて葺き替えることにした。屋根の安全性を確保することはプロジェクト目標及び上位目標を達成するために、必要不可欠であると、NIPESと協議を重ね判断した。

3-6. 学生寮を改修する。(大学運営期間中を考慮し、寮が1、2階、両側の4区画に分かれているため、学生全員が生活できるよう1区画ずつ順番に改修する。学生寮の屋根構造、瓦、給排水システ

	ム、配電システム及び床の傷みを改修する。) 3-7. 体育関連図書を購入し、関連書を揃える。 当初の計画では体育関連図書を 20 タイトル購入予定であったが、カリキュラム・フレームワークに従って各科目の授業に必要な専門図書をリストアップし、最も必要な図書を厳選して 28 タイトル購入することにした。また、1 タイトルにつき 2 冊ずつ購入し、1 冊は保管用、もう 1 冊は教職員への貸し出し、コピー用とする。 3-8. 施設建設状況を確認する。(寮改修中は、施設建設専門家を雇用し、毎日午前中は現場で、詳細図面、工程表に従った工事状況をモニタリングする。午後は当会の事務所で報告書を作成し、設計図に従った建築が行われているか、材料等の齟齬はないか、破損等がないか、工期通り進んでいるか等を記載した日報及び月例報告書を提出する。) 3-9. 施設管理のためのワークショップを開催する。 実施回数：1 回 (概要) 実施期間：3 日、実施時期：4 か月目の下旬、対象者数：20 名（技術委員会を中心にした 20 名）、外部専門家の招へい：有り（建設業者エンジニア） 経費：参加者日当、軽食費、会場清掃費、文具購入費、資料印刷費等 建設業者のエンジニアを外部専門家として招聘するので、講師招へいのための経費は発生しない。 目的と内容：寮の建物、備品等の維持管理と使用方法、及び使用規則についての研修 ・寮の建物、備品等の維持管理、使用方法に関しては改修工事が終了するとともに、建設業者のエンジニアを研修会の講師として招へいし、NIPES の教職員に対し、講義と実習を行う。NIPES 職員は研修会を通じて維持管理と使用方法を学び、研修後には NIPES 内で維持管理担当者、スケジュールを決めて維持管理ができるようにする。 ・寮の建物、備品等の使用規則については NIPES の担当者が作成し、研修会にて他の教職員に教えることとする。研修会後は研修に参加できなかった教職員にも教え、NIPES で定めた使用規則に従って学生が施設を利用することができるようにする。 3-10. 施設移譲のための覚書を交わし、譲渡式を実施する。 (概要) 実施期間：1 日、実施時期：5 か月目の上旬、参加者数：60 名 参加者内訳（在カンボジア日本国大使、他大使館関係者 3-4 名、カンボジア教育・青年・スポーツ省 大臣、同事務次官、同事務次官補 2 名、スポーツ総局長、学校体育スポーツ局長、ナショナル体育スポーツセンター所長、体育スポーツ局長、NIPES 所長、NIPES スタッフ約 50 名、ハート・オブ・ゴールド関係者約 6 名） 経費：軽食費、会場清掃費、テープ、文具購入費、テントレンタル費、椅子レンタル費、資料印刷費 3-11. 施設運営マニュアルを作成する。 (概要)
--	---

	スイミング・プールやジム・ルーム、ジム機材をはじめ NIPES には体育・スポーツ関連設備が存在する。大学における設備管理が高等教育機関認定のための最低基準にも記載されており、メンテナンス方法や頻度を体系的に管理していく必要がある。それぞれの機材についての現状のメンテナンス方法を確認し、NIPES 担当者と HG 担当者が協力して作成する。 3-12. 施設運営・利用状況のモニタリングを行う。(1、2 年目のプール及びプール付施設の利用状況、メンテナンス状況の確認に加え、寮の利用状況等を、チェック表を作成して確認する。 裨益人口 ・ 直接裨益人口：教育省 NIPES 職員：64 名（NIPES 局長 1 名、副局長 3 名、総務課 10 名、計画課 4 名、文書管理課 7 名、体育・スポーツリサーチセンター 3 名、体育・スポーツ教員養成センター 36 名）、NIPES (2021-2022 年度) 学生：1 年生 150 人、2 年生 0 人、3 年生 25 人、4 年生 20 人 ・ 間接裨益人口：カンボジア全国 1,766 校の中学校生徒数：632,303 名、全国 554 校の高等学校生徒数：351,794 名（2020-2021 年度教育省統計より）
(6) 期待される成果と成果を測る指標	3 年目（2022 年 3 月～2023 年 2 月） 成果1 NIPES の体育科コースが大学運営基準に従って運営するための制度が整えられる。 指標2. 体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿った 4 年制大学の運営が実施され、課題・教訓が抽出され、翌年度の改善策が提出されている。 なお、年ごとの成果を測る指標の数値であるが、第 1 年次では制度の基盤が 12 月に整ったので、達成度を 50%とした。第 2 年次の達成数値は新しく運用の程度を評価し、目標を 70%とした。 第 3 年次はアドミニストレーションとして、運営上必要なものが明確になり、アドミニストレーション・ハンドブックに従って運営されるようになることを目指し、目標を 80%とする。 指標 2 の根拠 期待される成果の成果 1 の全体数値目標を 100%とし、制度の基盤である体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックが作成されることを 50%の達成度とする。この 50%は第 1 年次で達成済み。残りの 50%を作成した各ポリシーを実際に運用することとする。日本の大学評価手法を参考にし、①使命・目的等、②学修と教授、③経営管理と財務、④自己点検・評価を項目とした評価基準²にしたアセスメントシートを作成し、それによってどの程度運用されているかを評価する。第 1 年次は 12 月か

ら運用を開始したばかりなので、運用の達成度は0である。
第2年次は実際に運用を開始するのでアセスメントシートを使って、運用状況を把握し70%を達成目標とした。
さらに、評価項目がどの程度運用されたかを見るだけでなく、NIPESが制度を自主的・自立的に運用できるようになったかどうかを測るために、各ポリシー等が実際にどのように使用され、どのような課題があり、改善したか、また改善案を提示することができたかを詳細に把握し、質的に向上しているかを測る。
第3年次は第2年次に評価した内容を基準値として、各評価項目の向上を図る。また、当該評価会議が毎年のルーティンとして位置づけられることにより、事業終了後も継続して毎年評価をし、向上する課題を明確化できるようにすることから達成目標を80%とした。

指標2の確認方法

- ・ モニタリング結果報告書
- ・ 評価会議結果報告書
- ・ 課題、教訓、改善案等が記載された提言書

成果2 NIPESにおいて、新しく認定されたカリキュラム・フレームワークに則って質の高い体育を教えられる人材が育成される。

指標1. 4年制大学体育科コースで教えていく能力を向上させるための体育教員育成研修がカンボジア国内で開催され、参加したNIPES教員の80%が80%の内容を理解している。(授業を教える36名のうち、前年度に達成している70%(人数)に加え、10%(4名)の能力向上を図る。また、前年度の70%(25名)についても知識の定着度を図る。4名については、本邦研修を実施し、その知識を自分たちで伝えていくことにより、知識を定着させる。理解していない職員に対しては、当会スタッフが補習を行う。)

指標1の根拠

期待される成果の成果2として、第1年次ではまず授業を実施するために必要なカリキュラム・フレームワーク、シラバス作成等を行った。一方、質の高い体育を教えられる人材が育成されたかを確認する必要があるため、各教員がその内容を理解しているか確認する必要がある。第1年次ですでに作成したアセスメントシートを用い、80%の教員が80%の内容を理解することを目標とする。第2年次は教員36名の内の70%が70%の内容を理解している。

さらに、実際の授業においてカリキュラム・フレームワーク、シラバス、指導案に沿った質の高い体育の授業を各教員が行っているかどうかを測る必要がある。実際に授業が始まった第2年次から授業評価のためのアセスメントシートを作成し、教員の80%が各項目の合計の80%を達成することを目標とする。

指標1の確認方法

- ・ 理解度確認テスト(各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は70%、今年

	度は 80%の正解率を目標とする) 指標2. 8名の研修生が本邦研修受講終了後に NIPES での指導方法についての改善案(1回目)及び評価についての改善案(2回目)が提出され、NIPES の 75%の職員が改善案に合意する。 指標 2 の根拠 研修参加者は本邦研修によって日本においての教授法・評価法を学ぶ。学んだ教授法・評価法が NIPES においてどのように適応可能かの改善案を作成し、他の NIPES 教員・職員に対して発表する。NIPES の 70%の他の職員がその改善案に合意することで、他の教員もそのような教授法・評価法を徐々に取り入れていくという行動変容を図っていく。 指標 2 の確認方法 ・ 指導方法改善案(1回目) ・ 生徒評価方法改善案(2回目) ・ 教員育成研修報告書 指標3. NIPES の 80%のマネジメント・スタッフがアドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシーや運営ハンドブックの内容を 80%以上理解している。(マネジメント職員 29 名中、前年度の 70%に加え、10%(3名)の能力向上及び前年度の 70%(21名)の知識の定着を図る。理解していない職員は個別にそれぞれの役割を確認した上で、なぜ理解できていないのかを確認し、個別に対応していく。) (各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は 70%、今年度は 80%の正解率を目指す。) 指標 3 の根拠 成果 1 の指標 2 では体育科コースのカリキュラム・フレームワーク、シラバス、アドミッション・ポリシー、キャリアプラン、評価ポリシー、体育科コース運営ガイドブックに沿って 4 年制大学の運営がどのように実施されているかどうかを測るが、一部の管理職のみがポリシー等を理解し、職員に指示を出してやらせているような状況であれば健全に運営されているとは言えない。また、研修会に参加した職員だけでなく運営管理にかかわるそれぞれの職員が運営に必要な各ポリシー等を理解し、課題を見つけ、改善していく能力があるかどうかを測る必要がある。 指標 3 の確認方法 ・ アドミッション・ポリシー理解度確認テスト ・ キャリアプラン理解度確認テスト ・ 評価ポリシー理解度確認テスト ・ 運営ハンドブック理解度確認テスト ・ 課題、教訓、改善案等が記載された提言 成果3 NIPES において新しく整備された施設が適切に維持管理され、体育の授業に利用されている。(第 1 年次の申請書では、指標 3 として
--	--

	「施設運営マニュアルが作成されている。」との記載であった。第2年次申請時に、これは指標ではなく活動の結果であるとの指摘を受けた。そのため、施設運営マニュアルが作成された結果何が達成されるかの指標としては、指標2が適切であると判断し、指標3は削除した。作成されたマニュアルを利用し、施設が適切に運営されている状況を成果とするため、成果を現行のものに改めた。第2年次にこれらを変更して申請を行っている。） 指標1. 学生寮の耐久・安全性が向上し、体育関連書籍が教職員・学生に利用されるようになる。 指標1の根拠 寮改修の設計書に従い、寮が改修されることを指標としていることから、設計書に基づいた寮改修が完了することを指標とした。また、体育関連図書が少ないため、授業に必要な書籍を購入し、図書室に配架したり、翻訳し授業のために利用したりされることを目指すことから体育関連図書が整備されていることを指標とした。 指標1の確認方法 ・ 図書整備報告書 ・ 学生寮改修報告書 指標2. 80%のNIPES職員が施設運営について80%理解している。 各項目を網羅したアセスメントシートを使って理解度を図るテストを行う。前年度は70%、今年度は80%の正解率を目指す。 指標2の根拠 NIPES職員が寮の建物、備品の維持管理方法を理解し、実際に適切に維持管理できているかを測る。 指標2の確認方法 ・ 施設運営理解度確認テスト ・ 施設維持管理担当者リスト、担当報告書
(7) 持続発展性	NIPESは、教育省内スポーツ総局の一つの機関として年間予算が確保されており、事業終了後も継続する機関であるため、持続発展性を確保することができる。 本事業で建設・調達する体育施設・資機材等は教育省に移譲するが、修理やメンテナンスが必要な場合は教育省が独自で予算を確保し、責任を持って管理・修繕できるよう事業前から確認し、移譲の際にはその旨を覚書に記載する。 本事業によりNIPESの体育科コースが4年制大学になれば、他教科における教員養成大学と同等の位置づけになり、カンボジアにおける唯一の体育教員養成大学となる。 本大学の体育科コースに入学する学生は、卒業後は、教育省及び州教育局や、小・中・高等学校の教員養成校に配属されるが、多くの卒業生は、前年度に配属要請があった全国の中・高等学校に配属されるため、教員養成において本大学で学んだことを、卒業後には現職教員として全国の中・高等学校の生徒に教えていくことになる³。当会は、卒業生の配属状況及び

³ NIPES卒業生の進路は、全国の中学校・高等学校の体育科教員、小学校・中学校教員養成校の指導教員、教育・青

	指導状況を教育省と共に確認し、事業の成果がしっかりと中・高等学校の生徒まで及ぶようフォローしていく。 また新しい体育の普及について、NIPES で新しい体育を教える知識や技能を学んでも、実際の中・高等学校の現場では、それらを実施できる状況ではないという課題がある。また、グラウンドに関しては、現状整備されていない学校が多いため、現在の小・中学校の指導書には、整備されていない学校でも新しい体育を実施できるように教具やスペースを工夫できるような方法が盛り込まれている。また、NIPES4 年制大学の体育科コースのカリキュラム内では、授業内容を検討する際に、教員となる学生は、設備が整備されていない学校においても体育を実施できるような教授法を取得するよう内容を検討する。
--	---